



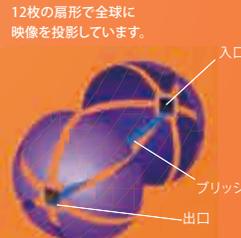
# 360°の音と映像に 包まれる、 驚きの世界へ。

## シアター THEATER 360とは?

2005年「愛・地球博」の長久手日本館で人気を博した「地球の部屋」が、国立科学博物館に移設され、「THEATER360(シアター・サン・ロク・マル)」として生まれ変わりました。直径12.8m(実際の地球の約100万分の1の大きさ)のドームの内側すべてがスクリーンになっていて、その中のブリッジに立ち、映像をご覧ください。  
360°全方位に映像が映し出され、独特の浮遊感などが味わえる世界初のシアターです。



THEATER 360 イメージ図



THEATER 360 の映像システム

12枚の扇形で全球に映像を投影しています。

## シアター THEATER 360 をご鑑賞にあたっての注意事項

- おことわり: 映像の特性上浮遊感やスピード感があり、気分が悪くなるおそれがあります。特に、「小さいお子様」、「体調のすぐれない方」、「妊娠中の方」、「高齢の方」、「心臓疾患をお持ちの方」などは充分ご注意ください。また、「飲酒されている方」、「付き添い者のいない未就学児童」、「未就学児童の団体」のご入場はご遠慮願います。
- 禁止事項: シアター内での飲食、上映中の撮影、携帯電話の使用、火気の使用、肩車。その他は、係員の指示に従ってください。



飲食



撮影



携帯電話の使用



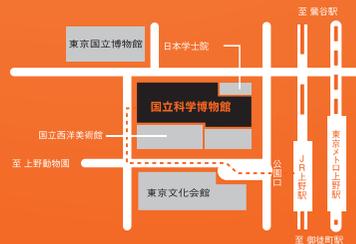
火気の使用



肩車

## 国立科学博物館利用案内

- 【開館時間】 9:00—17:00(入館は16:30まで)  
金曜日・土曜日 9:00—20:00(入館は19:30まで)
- 【常設展入館料】 一般・大学生 620円(20名以上団体 500円)、高校生以下 無料
- 【閉館日】 毎週月曜日(日・月曜日が祝日の場合は火曜日)  
年末年始(12月28日～1月1日)  
※特別展等により変更することがあります。
- 【アクセス】 JR「上野駅」公園口から徒歩5分。  
東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」から徒歩10分。  
京成電鉄「京成上野駅」から徒歩10分。※駐車場はありません。



深海  
潜水艇が照らす  
漆黑的の闇



画像提供: JAMSTEC (海洋研究開発機構)

# しんかい 深海

## - 潜水艇が照らす漆黒のフロンティア -

深海は真っ暗で低温、そして高い水圧がかかる過酷な環境です。深海底の大部分は一面泥に覆われ、生物も乏しい砂漠のような世界です。しかし深海にもオアシスのような生物の楽園が存在し、それが海底熱水活動域です。ここには熱水に含まれる硫化水素やメタンから有機物を合成する微生物に支えられた特異な生物社会が存在しています。

SCENE 1 オープニング



『深海』、それは水深が200mよりも深い場所だ。そこには、巨大な山脈や地球上でもっとも深い谷が存在する。海の、実に9割以上が深海なのだ。

SCENE 2 無人探査機「かいこう」が海面に着水



特殊な潜水艇でなければ行くことのできない、地球最後のフロンティアを訪ねよう。

SCENE 3 深海底を目指し、潜水



駿河湾の水深1,000mの深海底を目指す。

SCENE 4 水深200m



水深200mで、太陽の光がほとんど届かなくなり、光が失われてしまうのだ。

SCENE 5 駿河湾海底 水深1,000m



潜水艇が海底に到着した。深海底はそのほとんどが、泥に覆われ、生物も乏しい砂漠だ。

SCENE 6 オニヒゲとカナダダラの餌の奪い合い



餌を置くとすぐに、どこからともなく匂いを嗅ぎつけたオニヒゲがやって来た。遅れて来たのは、黒く小さいカナダダラ。2匹が餌を巡って争っている足元には無数のクモヒトデが生息している。体をくねらせて泳ぎ去っていくのはホラアナゴの仲間だ。

SCENE 7 餌に群がるホラアナゴ



しばらくすると沢山のホラアナゴたちが集まってきて、滅多にないごちそうに群がっている。彼らは、海底に落ちてくるクジラなどの死骸を主な餌とする。光合成ができない深海では、多くの生物のエネルギー源は、浅いほうから落ちてくる生物の死骸や排せつ物に限られるのだ。

SCENE 8 沖縄トラフ 水深1,500m



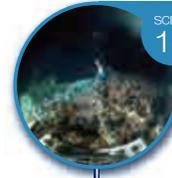
潜水艇の光が、今度は沖縄トラフの水深1,500mの深海を照らす。

SCENE 9 潜水艇の光が深海を照らす



そこには、駿河湾とは全く違う、驚くべき光景が広がっていたのだ。ここは、海底火山付近で300度を超えるような高温の熱水が噴出している場所、『熱水噴出孔』のそばだ。

SCENE 10 無数のシンカイヒバリガイとオハラエビ



ここには熱水域特有の生態系が存在する。ブドウ色をしたシンカイヒバリガイが海底一面を覆い、白いオハラエビが活発に泳ぎ回っている。

SCENE 11 ゴエモンコシオリエビ



密集している真っ白い生物は、ゴエモンコシオリエビ。彼らは熱水に含まれる硫化水素をエサとする微生物を胸毛に共生させて、それを脚で漕ぎとって食べている。

SCENE 12 熱水噴出孔へ降下



これが熱水噴出孔だ。熱水が、まるで煙のように吹き上がっている。地球最初の生命は、原始の海のこのような場所で誕生したという説もある。熱水噴出孔をめぐる生態系が、生命の起源を解き明かすかもしれないのだ。

SCENE 13 深海底に着底



熱水噴出孔の表面をびっしりと覆う白いものはイトエラゴカイの巣だ。彼らは重金属が溶け込んだ100度以上の高温熱水のそばに住んでいる。

SCENE 14 潜水艇のホースでイトエラゴカイを吸引



潜水艇のホースで巣ごと吸引してみよう。採集したイトエラゴカイは鮮やかな黄色をしている。彼らはヒ素を大量に体内に取り込んでいるが、その生態は謎につつまれている。

SCENE 15 観測機器の回収に向かう



熱水噴出孔のそばに設置した、小型生物を採集するための観測機器を回収に向かう。

SCENE 16 回収に成功



観測機器の回収に成功した。深海を後にして、海上で待つ研究者のもとへ戻ろう。

SCENE 17 海面に向け、浮上



私たち生命や、その故郷である地球は、40数億年という長い歴史を歩んできた。深海はその歴史と、これからの未来を理解する上で欠かせない存在であることが、最近の研究でわかってきている。今回のミッションが、さらに新しい発見をもたらすかもしれないのだ。

SCENE 18 エンディング



深海への挑戦は、これからも続く。